



令和5年3月10日

大田区議会議長

鈴木隆之様

オリンピックパラリンピック観光推進特別委員長

椿 真一

オリンピックパラリンピック観光推進特別委員会中間報告書

本委員会に付託された調査事件につき、現在までの調査状況を下記のとおり報告する。

記

1 調査事件

- (1) スポーツ資源の活用による地域活性化について
- (2) 観光のまちづくりについて
- (3) 東京オリンピック・パラリンピックについて

2 中間報告

本委員会では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、「東京2020大会」という。）の開催や大田区総合体育館、大田スタジアム及び大森東水辺スポーツ広場をはじめとする「新スポーツ健康ゾーン」などのスポーツ資源のさらなる活用により、スポーツを自ら楽しむ人々のみならず、多くの観客や外国人を含めた観光客が集まることで地域の活性化を図っていくことを重要な視点と捉え、調査・研究を行ってきた。

令和4年は、「スポーツ健康都市宣言」が10周年を迎えたこと、新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」という。）の水際対策の大幅緩和や入国者数の上限撤廃などにより、時代の流れに沿った新型コロナと共存した安心安全なイベントの実施手法の検討や個人旅行を含むインバウンド受入再開に対する取組、1年前に開催された東京2020大会後の

レガシー継承に向けた取組について調査・研究を行った。

昨年5月に中間報告を行っているので、ここで、主に昨年6月以降に行った調査・研究結果について報告する。

(1) スポーツ資源の活用による地域活性化について

区は、平成30年3月に策定した「スポーツ推進計画（改定版）」において「スポーツで創る健康で豊かなくらしとまちの活力」を基本理念に掲げ、区の地域力を活かし、世界に誇れるユニバーサルなスポーツ環境を構築し、「誰もが健康で暮らせるまち」を実現するための施策を推進している。

また、平成24年6月の大田区総合体育館開館にあわせて行われた「スポーツ健康都市宣言」を記念した以下のような事業を、感染症拡大防止対策を徹底しながら実施している。

① スポーツ健康都市宣言10周年記念事業

令和4年は「スポーツ健康都市宣言」を行って10周年を迎えたため、10周年記念事業と題し、第15回OTAウォーキング、第9回おおたスポーツ健康フェスタ及び第39回大田区区民スポーツまつりを実施した。十分な感染症対策をした上で記念事業を開催し、参加者から好評の声があった。OTAウォーキングは、158名の参加者が少数のグループに分かれ、西蒲田公園を出発、多摩川河川敷を經由し、ソラムナード羽田緑地までの8kmをウォーキングした。おおたスポーツ健康フェスタでは、会場開催とオンライン開催とで実施し、スポーツ実施率の低い30～40代の女性をメインターゲットとしたプログラム「丸山桂里奈氏と一緒にやるヨガ体験」などを中心にスポーツへのきっかけづくりにつなげた。大田区区民スポーツまつりでは、大田区総合体育館などの全32会場で実施し、約8,400人の参加があった。また、元サッカー日本代表の福西崇史氏によるトークセッションやサッカー教室に加え、東京2020大会の種目であるボルダリングやボッチャの体験会などを通して、コロナ禍でも区民がスポーツに親しむ機会を創出できた。

委員からは、非常によいプログラムであり、コロナ禍で感染状況の予断が許されない中で、当日会場に行かれる人数が限られており、会場に足を運べない人への対応として、プログラムを動画コンテンツとして配信する取組を進めてほしいとの要望があった。

② 「WBSC 2023 U-15 Women's Softball World Cup」東京大会

本大会は、2023年に第1回大会となる WBSC（世界野球ソフトボール連盟）主催の U-15 女子ソフトボールワールドカップが東京で開催されることが決定されたことに伴い、競技会場が大会期間を通じて駒沢オリンピック公園総合運動場硬式野球場、グループリーグでは世田谷区立総合運動場野球場、スーパーラウンド及び決勝戦では大田スタジアムが使用されることになったとの説明があった。

委員からは、会場を決めるにあたり設備が整っているかなどの要素が必要だと思うが、どのような経緯で決まったのかとの意見があった。区からは、詳細に聞いているわけではないが、オリンピックの野球の練習会場として大田スタジアムを使っており、実際に使用し設備的に非常に良いとの評価に基づき、主催者が大田スタジアムを使用すると判断したのではないかと報告があった。

本委員会としては、「する」「みる」「支える」の3つの視点に立ったスポーツの充実を図るとともに、恵まれたスポーツ資源が集積した新スポーツ健康ゾーンを最大限活用し、区民の健康増進とまちの活力をより高めていくため、引き続き調査・研究を行っていく。

(2) 観光のまちづくりについて

① 大田区公式PRキャラクター「はねぴょん」の取組

区の魅力を内外に発信し、区の統一感を創出するとともに、区への愛着・誇りを醸成することを目的として誕生した大田区公式PRキャラクター「はねぴょん」は、新型コロナの拡大の影響により、イベント等が減少し、直接的なPR機会が減った一方で、オンラインを活用した動画配信などの取組を行ってきた。その結果「はねぴょん」の認知度が高まり、デザインへの要望も増え、現在206種類に至っている。

区から、令和4年度の取組として、はねぴょんグッズの製作・販売を大田観光協会へ移管した一方で、新型コロナの影響で中止が続いていた集客イベントが久しぶりにリアル開催されることから、他自治体のイベントに参加することや、引き続きSNS等を活用したPRに取り組むことにより、区の認知度向上と本区への来訪意欲喚起に努めると示された。

委員からは、「はねぴょん」は大田区を象徴するキャラクターであり、非常に大きな役割を担っている。区内来訪や区民のシビックプライドの醸成、区の多面的なPRを展開するために効果的に「はねぴょん」を活用してほしいとの要望があった。

② 令和4年度羽田空港「空の日」記念行事

平成26年度から羽田空港「空の日」記念行事の連動イベントとして羽田空港旧整備場地区において区主催による「国際都市おおたフェスティバル in『空の日』羽田」を開催してきた。昨年度は、新型コロナの影響により集客イベントとしては中止したが、今年度は羽田空港「空の日」記念事業実行委員会の一員に加わり、新型コロナ収束後に向けた賑わいの創出や地域と羽田空港との共存共栄を目的に羽田空港内と羽田イノベーションシティ内の2会場で実施した。空港内では、折り紙飛行機教室や整備体験教室をはじめ、普段立ち入ることのできない格納庫見学を実施し、羽田イノベーションシティ内では、大田区商店街連合会青年部による物販や大田観光協会・観光情報センター共同による区内産品を販売し、家族連れや航空業界ファン等の多くの方の来場があった。実行委員会でイベント実施後に意見交換を行い、地域や企業と連携するとともに目的を明確にし、子どもたちの記憶に残る事業を展開すべきなどの意見が挙げられたとの説明があった。

委員からは、これまでは区主催の「国際都市おおたフェスティバル in『空の日』羽田」を実施してきたと思うが、羽田空港「空の日」記念事業実行委員会の一員に加わったことで、今後もこの手法でイベントを実施していくのかとの意見があり、区からは、今年度の実行委員会の振り返りの中で今後も一体的に実施していくとの確認が取れたため、来年度も今年度同様の手法で実施していくとの報告があった。

③ 大田区・川崎市連携事業

大田区・川崎市連携事業は、平成25年4月に大田区と川崎市で締結した産業連携に関する協定」に基づく広域連携事業である。

令和4年度は、大田区・川崎市連携事業として京急蒲田駅・京急川崎駅構内で両区市の特産品販売と地ビール列車ツアーを実施した。両区市の特産品販売では、大田区観光情報センターによる区内及び秋田県美郷町の特産品販売や大田観光協会などによる区内の特産品販売と観光情報PR及び両区市の飲食店による実演販売（全11店）を実施し、2,000人を超える来場があり、区の魅力の認知度向上と商業振興に繋がった。また、大田・川崎地ビール列車ツアーでは、午前・午後あわせて計69組115名の参加があり、約2時間の旅を楽しんでいる様子が見られた。

委員からは、前回は川崎の工場夜景ツアーを実施しており大変好評と聞いていたが内容を変更したのはなぜかとの意見があり、区からは、数年間にわたり、羽田空港内

の整備工場見学と工場夜景クルーズを合わせたツアーを実施してきたが、工場夜景クルーズは民間旅行会社の定番ツアーとして定着するなど行政の施策として一定の効果が得られたものとする。そのため今年度は両区市の新たな観光資源の掘り起こしと地域活性化を目的に、クラフトビール列車の運行と両区市の特産品や商店のPRをする、新しいチャレンジをすることになったとの報告があった。

④ 大田観光協会事業

大田観光協会は、区の持つ地域特性を活かした観光事業を数多く展開し、文化芸術・スポーツの振興や産業・地域の活性化の促進に取り組んでいる。

令和4年度は、3年ぶりに「おおたオープンファクトリー2022」をリアル開催し、新型コロナ対策を施しながら工場見学やモノづくりワークショップ、大田区のモノづくりに関する展示の提供等を実施し、総来場者数3,100名を超える参加があり、参加者アンケートでは約6割の方が「大田区のまちが好きになった」との回答があった。また、令和島を含む区臨海部の新たな魅力の発信と誘客の促進を目的に初めて実施した「大田の魅力満喫モニターツアー」では、定員25名のところに183名の応募や報道機関4社の同行取材があるほど人気を博した。今回のツアーでは、普段は一般公開されていない令和島の中央防波堤外側コンテナふ頭や昭和島の東京モノレール車両基地をコースの一部に入れたところ、参加者アンケートでは大変満足と満足で100%の結果となり、令和になって誕生した大田区の新たな地域である令和島の認知度向上が図られるとともに、令和島を含む空港臨海部の多様な魅力を体感できたツアーとなった。

委員からは、オープンファクトリーは大田のものづくりを知ってもらい、とても良い機会であり、厳しい経営状況に置かれている工場の実態をしっかりと大田区内外の人たちに伝えるイベントになっていることから、引き続きイベントの継続をお願いしたいとの要望があった。

また、海苔の歴史があるなどの魅力がたくさんある令和島を、より多くの区民に知ってもらい、理解を促進し認知度向上に結び付けてほしいとの要望があった。

(3) 東京オリンピック・パラリンピックについて

① 2022ブラジル大使館杯バレーボール大会

本大会は、東京2020オリンピックのブラジル事前キャンプが行われたレガシーを引き継

いでいくため、ブラジル大使館等と連携し、幅広い世代に、楽しみながらブラジルと大田区との関わりを知ってもらい、スポーツへの興味関心の向上を目指した大会である。

区から、前夜祭イベントと試合をあわせて3日間開催し、前夜祭イベントではブラジル人監督によるバレーボール教室に多くの区民が参加したことや、在日ブラジル人等の外国人チームと家庭婦人選抜チームとの交流試合を実施し、屋外スペースでブラジル料理などのマルシェを開催したことで、ブラジルと大田区の交流を深めることができたとの報告があった。

委員からは、現在大田区に溶け込んでいるブラジルの方々とのように関わりを持たせていく予定なのかとの意見があり、区からは、ブラジル関連のイベントについて、地域に根差して生活している方々を含め、区民全般に向けた周知を行い、足を運んでもらうために取り組んでいくとの報告があった。

② 「Nako Motohashi 2020記念 3×3バスケットボールコート」について

本コートは、東京羽田ヴィッキーズ所属の本橋菜子選手が、東京2020オリンピック女子バスケットボールで銀メダルを獲得したことを記念し設置したスリー・エックス・スリー（3×3）バスケットボールコートである。開設イベントでは、東京羽田ヴィッキーズ選手によるスリー・エックス・スリー（3×3）の実演や一般来場者参加型のシュートチャレンジを実施した。本橋菜子選手は別日に来場し、インタビューや記念撮影、はねぴよんとのフリースロー対決の動画を撮影した。また、バスケットボールをしている子ども達に向けて、「身長が小さくても世界で通用するということを結果で示すことができた。バスケットボールを楽しむことを忘れずに高い目標をもって頑張っていってほしい」と本橋菜子選手本人からコメントがあったと報告があった。

委員からは、本橋選手の栄誉をたたえるためにも、公園の成り立ちや本橋選手からのメッセージ等を掲示するようなものがあると良いとの意見があった。

③ おおたビーチバレーボールフェスティバル

本イベントは、東京2020大会のブラジル事前キャンプが行われた大森東水辺スポーツ広場ビーチバレー場において、ブラジル事前キャンプを実施したことを記念したビーチバレーボール大会やオリンピックと触れ合いながら子どもから大人まで誰もが楽しめるビーチバレーボール体験会を開催し、東京2020大会のレガシーを後世につなげるものである。

ブラジル大使館の協力により、ブラジル大使館杯と銘を打ち開催したことやエキシビションマッチ等を取り入れることで、参加者や来場者に試合を観覧して楽しんでもらった。また、ビーチバレーボール体験会では、東京2020大会に出場した大田区出身のアスリートである白鳥勝浩選手が講師となり、オリンピックのレベルを感じられる体験会となったとの報告があった。

委員からは、このイベントは東京2020大会のレガシー事業として今年度限りではなく、次年度以降も継続して実施していく理解でよいかとの意見があり、区からは、所管課としては継続して実施していきたいと考えているとの報告があった。

④ 東京2020大会レガシー事業大田区ランニング教室（第1～3回）について

本イベントは、東京2020大会開催によるスポーツへの関心の高まりを受け、気軽に取り組めるスポーツとして人気のあるランニングの普及と区民のスポーツ実施率の向上と健康増進を図るもので、東京2020大会レガシー事業の一環として実施するイベントである。

令和4年度は3回の実施を予定し、すべての回において1万メートルハーフマラソン元日本記録保持者の片岡純子氏が講師となり、実施した回において、ランニングシューズの正しい履き方や正しいフォームで走るポイント等のランニング初心者でも気軽に親しめるプログラムを提供したとの報告があった。

委員からは、3回のコースについて、別々の地域で実施する予定なのか。また、教室1回あたりの距離は約1万メートルのコースを設定しているのかとの意見があり、区からは、調布、大森、蒲田の3つの地域で1回ずつ実施し、安全に走れるコースで、開催場所に合わせた距離を設定しているとの報告があった。

本委員会では、東京2020大会後もオリンピックパラリンピックレガシー継承のために、区が実施している様々な関連事業の進捗状況を注視し、引き続き調査・研究を行っていく。

(4) 行政視察について

本委員会では、令和4年10月26日から27日の2日間にわたり、香川県にある琴平バス株式会社、香川県及び高知県の視察を行った。

琴平バス株式会社では「うどんタクシーについて」、香川県では「うどん県に関する取り組みについて」、高知県では「第2期高知県スポーツ推進計画 ver. 5について」の項目につ

いて、それぞれ現地視察を行った。

詳細な視察報告については、「オリンピック パラリンピック観光推進特別委員会 行政視察報告書」を作成したので、そちらをご参照いただきたい。

[\(オリンピック パラリンピック観光推進特別委員会 行政視察報告書\)](#)

(5) ブラジル大使館親善訪問について

本委員会は、令和5年2月22日にブラジル大使館の親善訪問を行った。

オタヴィオ・コルテス駐日ブラジル大使やグスターヴォ・フォルトゥーナ二等書記官と「スポーツや商業分野での大田区とブラジルの交流」について、意見交換を行った。

大使からは、東京2020オリンピックの際に、ブラジル代表チームのキャンプの受入などで大変お世話になったことや令和4年9月17日に初開催した「2022ブラジル大使館杯ビーチバレーボール大会」の次年度の協力などについて話があった。

意見交換を通じ、オリンピックレガシーの継承や本区の今後のスポーツ振興、産業交流の分野にとって大変有意義な親善訪問であった。

(6) オリンピック パラリンピック観光推進特別委員会の今後の展開

コロナ禍で思うように運動ができないなどの我慢が続いてきた状況の中で、長期間続いているコロナ禍でも多くのイベントで規模は縮小しながらも少しずつ開催されてきており、区民やイベントの参加者からもイベントを待ち望んでいた声も多々あった1年間であった。その中で、区は基本的感染対策を励行しながらコロナと共存したイベントを実施しており、スポーツや観光施策を通して区に活気が戻ってきている。

スポーツ推進においては、スポーツ健康都市宣言から10年を迎えたことで、スポーツを楽しむことの大切さやスポーツすることを通して健康でいることの幸せを区民に改めて周知する機会を作ったことや、オリンピック・パラリンピックで活躍した選手などに協力をしてもらいながら、スポーツ実施率向上を目指すとともに区民の健康増進に努めている。

一方で、観光施策の取組として、数年ぶりに開催できたイベントも数多くあり、実施手法に工夫を凝らしながらコロナ禍でも楽しめる事業を企画し、観光を通じた区内経済の発展や区民のシビックプライドを醸成する機会を提供している。新型コロナが2類相当から5類感染症への移行が予定されており、これまで以上にインバウンドの需要が上昇していくことが予想されるため、国内への意識だけでなく国際感覚を持ちながらイベントの実施や広報・周

知に力を入れていくことが必須となってくる。

また、本委員会のブラジル大使館への親善訪問は、令和3年度に正副委員長で、令和4年度は本委員会全員で実施し、人と人との交流を行った。今後もブラジル大使館との交流を深めるために点から線、線から面へ展開できるよう、本委員会が中心となって取り組んでいく。

本委員会としては、東京2020大会で得た知見・経験を活かしたスポーツの推進、産業交流などのスポーツ分野を超えたレガシーの創出・継承、インバウンド等も見据えた多角的な視点での観光施策の実施の必要性を強く認識し、オリンピック パラリンピック観光推進特別委員会の中間報告とする。